

闘争方針書順序

- 一 客観的情勢 — 資本主義日本。國際的地位 — 資本主義日本の情勢
 - 二 青年同盟當面の任務
 - 三 我國青年運動の客観的情勢と其批判 — 四全日本無産青年同盟批判
 - 四 闘争の方針 — 斗争の基準
 - 五 闘争の方針 — 政治的自由獲得斗争 — 反軍国主義斗争 — 労働青年の斗争
 - 六 結語
- 労働条件改善斗争 — 労働青年組織体と斗争 — 斗争
 斗争 — 其他 — 学生運動 — 教育運動

客観的情勢

(ア) 資本主義の発展 — 資本主義の発展は、工業革命を経て、世界に波及した。この結果、生産力が飛躍的に進歩し、人類の生活水準は大幅に向上した。しかし、この発展は不均等であり、資本主義国家と従属国との間に格差が生じた。

(イ) 資本主義の矛盾 — 資本主義の発展に伴って、生産社会化と私有財産制との間に矛盾が生じた。この矛盾は、労働者と資本家との対立を招き、社会不安を醸成した。

(ウ) 資本主義の危機 — 第一次世界大戦の勃発は、資本主義の危機を露呈させた。戦時体制の導入は、自由競争の原則を崩壊させ、国家干渉を強めた。

(エ) 資本主義の転機 — 戦後の世界は、資本主義の転機を迎えている。科学技術の進歩により、生産力はさらに向上している。しかし、戦後の混乱と経済危機は、資本主義の持続可能性を問われている。

(オ) 資本主義の未来 — 資本主義の未来は、労働者の団結と斗争による変革に依存している。労働者は、自己の利益を守るために、組織化された斗争を遂行しなければならない。

(カ) 資本主義の現状 — 現在の資本主義は、高度な生産力を持つ一方で、格差拡大と社会不安を抱えている。労働者は、この現状を打破するために、積極的な斗争を推進すべきである。

(キ) 資本主義の課題 — 資本主義は、社会正義の実現と労働者の権利の保障という課題に直面している。労働者は、これらの課題を解決するために、団結と斗争を武器とする必要がある。

(ク) 資本主義の展望 — 資本主義の展望は、労働者の団結と斗争による変革に明るい。労働者は、自己の利益を守るために、組織化された斗争を遂行しなければならない。

(ケ) 資本主義の結論 — 資本主義の結論は、労働者の団結と斗争による変革にあり、労働者は、自己の利益を守るために、組織化された斗争を遂行しなければならない。